

千秋公園大手門の堀遊歩道整備基本計画

(原案)



令和3年12月

秋田市建設部 公園課

目次

第1 事業概要.....	1
1 背景と目的.....	1
2 「千秋公園再整備基本計画」(平成30年3月改定)での位置づけ.....	2
第2 大手門の堀の現状.....	5
1 大手門の堀の概況.....	5
2 堀の景観.....	7
3 堀の自然環境や植生.....	9
4 現状のまとめ.....	11
第3 基本方針.....	12
1 遊歩道整備の方向性.....	12
2 想定する利用形態.....	14
3 動線計画.....	15
第4 整備イメージ.....	16
1 遊歩道の構造方針.....	16
2 遊歩道の構造.....	20
3 浮棧橋の構造細目.....	21
4 遊歩道のルート.....	22
第5 その他.....	24
1 維持管理.....	24
2 周辺施設との連携.....	24
3 整備スケジュールについて.....	24



第1 事業概要

1 背景と目的

千秋公園は、秋田藩佐竹氏が自然の地形を利用して築城した「久保田城」を礎とした都市公園です。本市の歴史、伝統、文化を集約した文化遺産であるとともに、豊かな自然が残り、市民の憩いの場として親しまれています。

また、千秋公園には、藩政時代からの堀が現存し、中心市街地にありながら、豊かな親水空間を創出しています。その中でも大手門の堀は、夏季になるとハスが見頃を迎え、堀一面に咲くハスを楽しむことができ、市民のみならず、多くの観光客が訪れます。

本市では、平成30年3月に千秋公園再整備基本計画を改定し、社会情勢や市民ニーズ等の変化に対応した、誰もが利用しやすく、楽しめる公園を目指し、再整備を進めています。

本計画は千秋公園再整備基本計画に基づき、親水空間の充実とハスの魅力を高めるため、大手門の堀の遊歩道整備に向けた「基本計画」を策定するものです。



2 「千秋公園再整備基本計画」(平成30年3月改定)での位置づけ

大手門の堀遊歩道整備は、千秋公園再整備基本計画で、「基本方針④ 中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり」に位置づけられています。

大手門の堀内に、東側ポケットパークから中土橋門跡へつながる遊歩道を整備し、歩行者動線を強化するとともに、ハスを観賞できる場を設けることで、親水空間の充実を図ります。

基本理念

『久保田城、そして 千秋公園として育まれてきた魅力(財産)を活かすことで、憩いとにぎわい空間を再生する』
 ～歴史の風情と自然に包まれ、人集い花かおる千秋の園～

基本方針

- ① 緑や花と風景の再生による、新たな魅力の創出
- ② 歴史的遺構の保全と継承、さらなる活用
- ③ 多様な目的への配慮、だれもが利用しやすい公園づくり
- ④ 中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり
- ⑤ 公民連携による公園の運営マネジメントの推進

再整備計画(項目)

- 1 中心市街地にある他施設との連携
- 2 公園エントランスの改修
- 3 親水空間の充実
- 4 外堀周辺の景観の向上



再整備計画(施策)

- (1) ポケットパーク(親水広場)からつながる遊歩道(デッキ)の整備
- (2) ハスの有効活用



「千秋公園再整備基本計画」(平成30年3月改定)ゾーニング別の再整備方針より



ゾーニング図

親水ゾーン

■ゾーンコンセプト

久保田城の遺構(外堀や内堀)、花(ハス)の眺望および散策を通して、中心市街地から人々を千秋公園や芸術文化施設へ誘う空間として整備します。

①主な利用イメージ

- ・中心市街地からの花や水辺の散策や観賞(観光含む)

②整備方針の内容

- ・**中心市街地に隣接するポケットパークを起点とした外堀沿いの遊歩道(花ハスの観賞)を整備**
- ・中心市街地から公園へのエントランス部分となる内堀周辺の景観や環境の向上を図る

③主な整備メニュー

- ・**ポケットパーク(親水広場)からつながる遊歩道(デッキ)の整備**
- ・ハスの適正管理と有効活用
- ・内堀周辺の景観整備(老朽化施設の撤去、休憩施設の整備)
- ・内堀、黒門の堀の水質浄化



「千秋公園再整備基本計画」(平成30年3月改定) 公園の利用実態および市民等ニーズアンケート調査より

【改善すべき点】

改善事項	公園利用者 (県内)	公園利用者 (県外)	市民	学生	商業・観光関係者
1位	さくらの老木の更新、支障木の伐採 (35.0%)	案内板や誘導標識の充実(36.0%)	駐車場の増設 (61.7%)	カフェ・レストラン (35.9%)	駐車場の増設 (58.7%)
2位	駐車場の増設 (24.8%)	ハスの観賞用の栈橋やデッキ (14.0%)	さくらの老木の更新、支障木の伐採 (37.9%)	コンビニエンスストア・売店 (34.1%)	歴史・文化的なイベントや催し物の充実 (38.1%)
3位	遊び・休憩ができる広場、開放空間 (14.6%)	駐車場の増設 (13.0%)	遊び・休憩ができる広場、開放空間 (31.0%)	冬季のイベント(イルミネーションなど) (31.8%)	さくらの老木の更新、支障木の伐採 (38.1%)
4位	案内板や誘導標識の充実 (13.9%)	主要園路のバリアフリー化(12.0%) 黒門などの復元 (12.0%)	カフェ・レストラン (28.7%)	歴史・文化的なイベントや催し物の充実 (31.4%)	中心市街地と連携した体験やイベント (36.5%)
5位	カフェ・レストラン (9.5%)	カフェ・レストラン (12.0%)	中心市街地と連携した体験やイベント (24.9%)	主要園路のバリアフリー化 (28.7%)	カフェ・レストラン (31.7%)

千秋公園再整備基本計画改定時のアンケート調査結果より、公園利用者(県外)から「ハスの観賞用の栈橋やデッキ」を求める意見が上位にあがっています。また、公園利用者(県内)や市民から「遊び・休憩ができる広場、開放空間」を求める声もあります。ほかに「主要園路のバリアフリー化」や「中心市街地と連携した体験やイベント」を求める意見もあります。

市民等ニーズから大手門の堀では、ポケットパークからつながる遊歩道の整備を計画しています。整備により、開放的な空間の創出や中心市街地と連携したイベントでの活用が期待できます。

【千秋公園及びその周辺のイベント】

イベント名	期間	場所
千秋公園桜まつり	4月中旬～下旬	千秋公園
千秋公園つつじまつり	5月中旬～下旬	千秋公園
お堀沿いのつつじライトアップ	5月上旬～5月下旬	千秋公園
千秋公園蓮の花ライトアップ	7月下旬～9月上旬	千秋公園(大手門の堀)
千秋蓮まつり	7月下旬～9月上旬	千秋公園(大手門の堀、中土橋)
秋田竿燈まつり	8月3日～6日	竿燈大通り(妙技会はエリアなかいち)
ハスの花咲く千秋公園 魅力再発見!	8月上旬～下旬	千秋公園(大手門の堀)
なかいち夏祭り	8月中旬	エリアなかいち
千秋花火	9月中旬、不定期	千秋公園、市内各所
羽州街道歴史まつり	10月上旬	中心市街地ほか
広小路バザール	10月中旬	広小路ほか
なかいちウインターパーク	11月下旬～2月下旬	エリアなかいち
あきた光のファンタジー	11月下旬～2月下旬	中心市街地



第2 大手門の堀の現状

1 大手門の堀の概況

- 久保田城の名残を伝える歴史的な文化遺産
- 豊かな自然、四季折々の花や緑、水辺の景観が楽しめる場
- 千秋公園のエントランス、芸術文化施設との連携

千秋公園の外郭をなす外堀のうち、広小路（主要地方道秋田停車場線）に面して2つのお堀があります。これらは中土橋により区切られ、東側を大手門の堀、西側を穴門の堀といいます。

初代藩主佐竹義宣が久保田城の築城に当たり、仁別川（旭川）の堀り替えによって外堀の役目を持たせたものであり、久保田城の名残を今に伝える歴史的な文化遺産となっています。

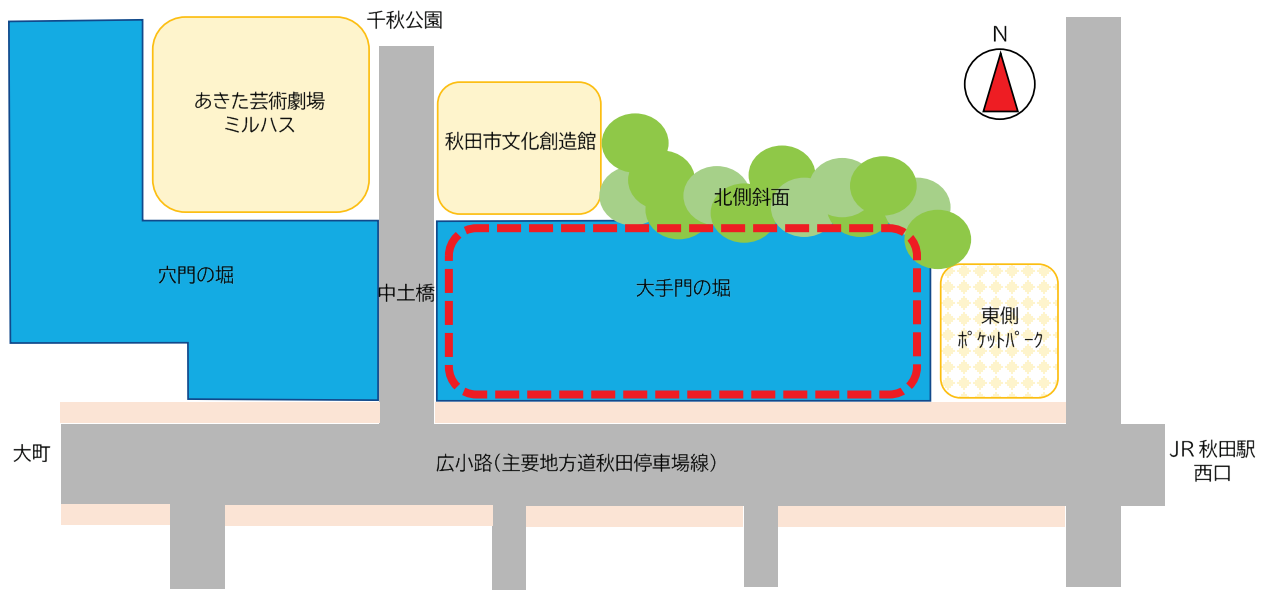
大手門の堀は、東西約250m、南北に約60mあり、水深は約1.0m程度、堀の底は軟弱な地層となっており、約20mの深さがあります。堀の水は旭川からの導水による循環を行っており、ハスやスイレンなどの水生植物やコイ、水鳥なども生息する豊かな水辺と緑の空間となっています。

堀の北側は、ツツジやサクラ、マツなどが植生する自然の豊かな斜面、秋田市文化創造館があります。東側には写真撮影スポット、親水デッキなどが整備されたポケットパーク、南側には秋田駅から通じる広小路、西側は千秋公園へ通じる中土橋があります。

大手門の堀は、中心市街地にあって豊かな自然、四季折々の花や緑、水辺の修景が楽しめる魅力的な場となっており、堀のハスは池坊花逍遥100選に選ばれています。

イベントとして、千秋公園では「千秋公園桜まつり」や「千秋公園つつじまつり」などのほか、ハスの開花時期には「千秋公園蓮の花ライトアップ」、「千秋蓮まつり」が開催され、県内外から多くの観光客が訪れます。

また、千秋公園周辺では、広小路を歩行者天国にした「広小路バザール」が開催されるなど、中心市街地のにぎわいを創出するさまざまなイベントが開催されています。



大手門の堀 概況図



広小路歩道



東側ポケットパークからの眺め



東側ポケットパーク



中土橋からの眺め



2 堀の景観

- 水辺や緑のある開放感を創出
- 緑豊かな北側斜面を背景とした水辺の空間とのコントラスト
- 堀の周囲は、自然の眺めに馴染むような柵などを使用

大手門の堀周辺からの眺めの特徴は以下のとおりです。

(1) 東側ポケットパークからの眺め

- ・北側は高木などの自然景観、南側が街なかの景観となっています。
- ・ハスの緑や水辺が幅と奥行きを持った眺めを創り出しています。
- ・柵は木や石など自然景観に馴染むように配慮されています。



東側ポケットパークからの眺め



(2) 中土橋からの眺め

- ・中土橋の近くまでハスが広がり、間近でハスの花を楽しめます。
- ・ハスの無い時期は水辺が前面に広がり、幅と奥行きを持った眺めを創り出しています。
- ・柵は木や石など自然景観に馴染むように配慮されています。



中土橋からの眺め

(3) 広小路からの眺め

- ・ハスの花が歩道の柵の高さを超えます。
- ・前面にハスが広がり、奥に堀の北側斜面が望めます。
- ・柵は自然景観に馴染むように配慮されています。



広小路からの眺め



広小路から東側を望む



3 堀の自然環境や植生

- 堀の約7割をハスが占め、スイレン、ヨシなども生育
- ハスの花は、広小路の歩道程度の高さまで成長
- 北側斜面にはツツジ、サクラ、マツなどが生育

(1) 堀の水質について

大手門の堀はかつて水質悪化が進んだことから、旭川からの導水を行い、堀の水を循環させることで、水質が改善されました。現在も旭川からの導水を継続しており、ハスが生育できる環境を維持しています。

(2) 堀の植生

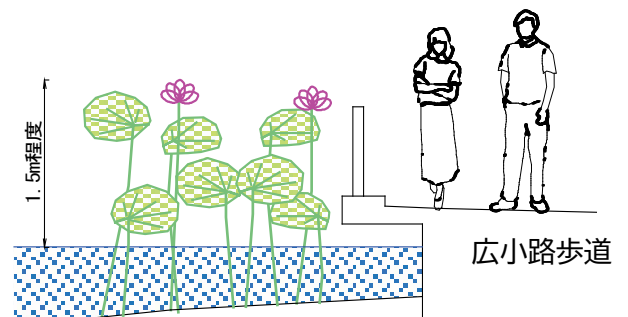
大手門の堀は水深が1.0m程度で、ハスやスイレン、ヨシなどの水生植物が生育しています。

大手門の堀にあるハスは、漁山紅蓮（ぎょざんこうれん）と類推され、開花時期には堀の約7割を占めます。水面から約1.5～2.0mの高さまで成長し、淡いピンクの大きな花を咲かせます。ハスは日光を好む水生植物であり、大手門の堀では7月上旬から9月中旬にかけて開花します。花や花たくが枯れたあと、休眠期に入ります。

ハスの良好な生育や水質の悪化を防止するため、毎年花たくや枯れ葉の刈り取りを行っています。



ハスの生育状況



ハスの高さ



スイレンは広小路と中土橋に沿って生育しており、堀の約1割を占めています。ハスの開花よりも前に開花し、水面付近に紅の花を咲かせます。比較的水位が安定している場所で生育します。開花時期は5月から7月頃となり、気温が高くなる季節に咲く花です。

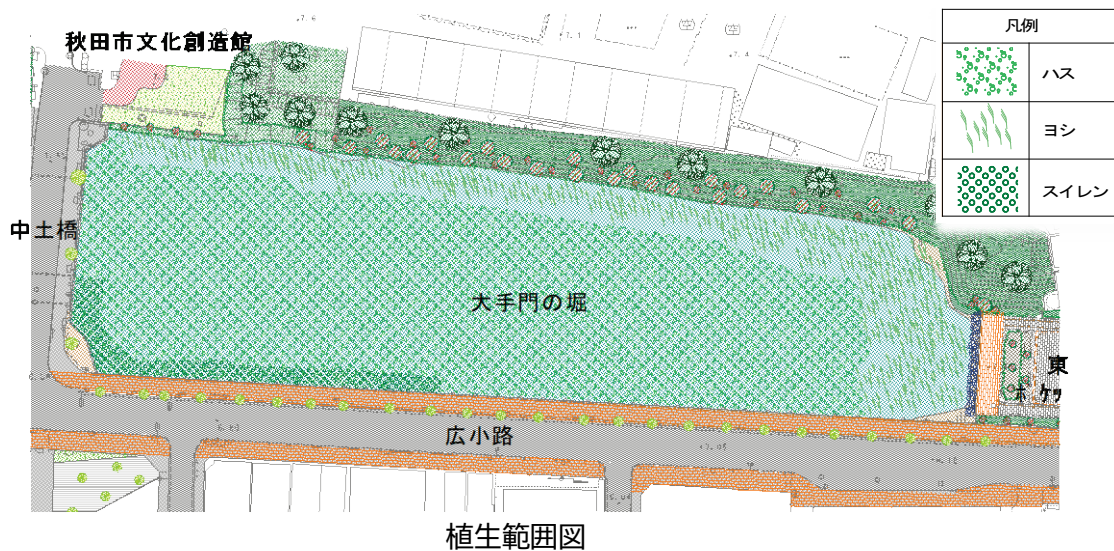
ヨシは堀の北側と東側に繁茂し、堀の約2割を占めています。水辺に多く自生する植物で、適切に管理することで水質浄化のはたらきや鳥や魚の棲みかとなっています。毎年、ハスの刈り取り時期と同時にヨシの刈り取りを実施しているほか、部分的に防草シートを設置し、過剰に広がらないように管理をしています。



広小路歩道側のスイレン



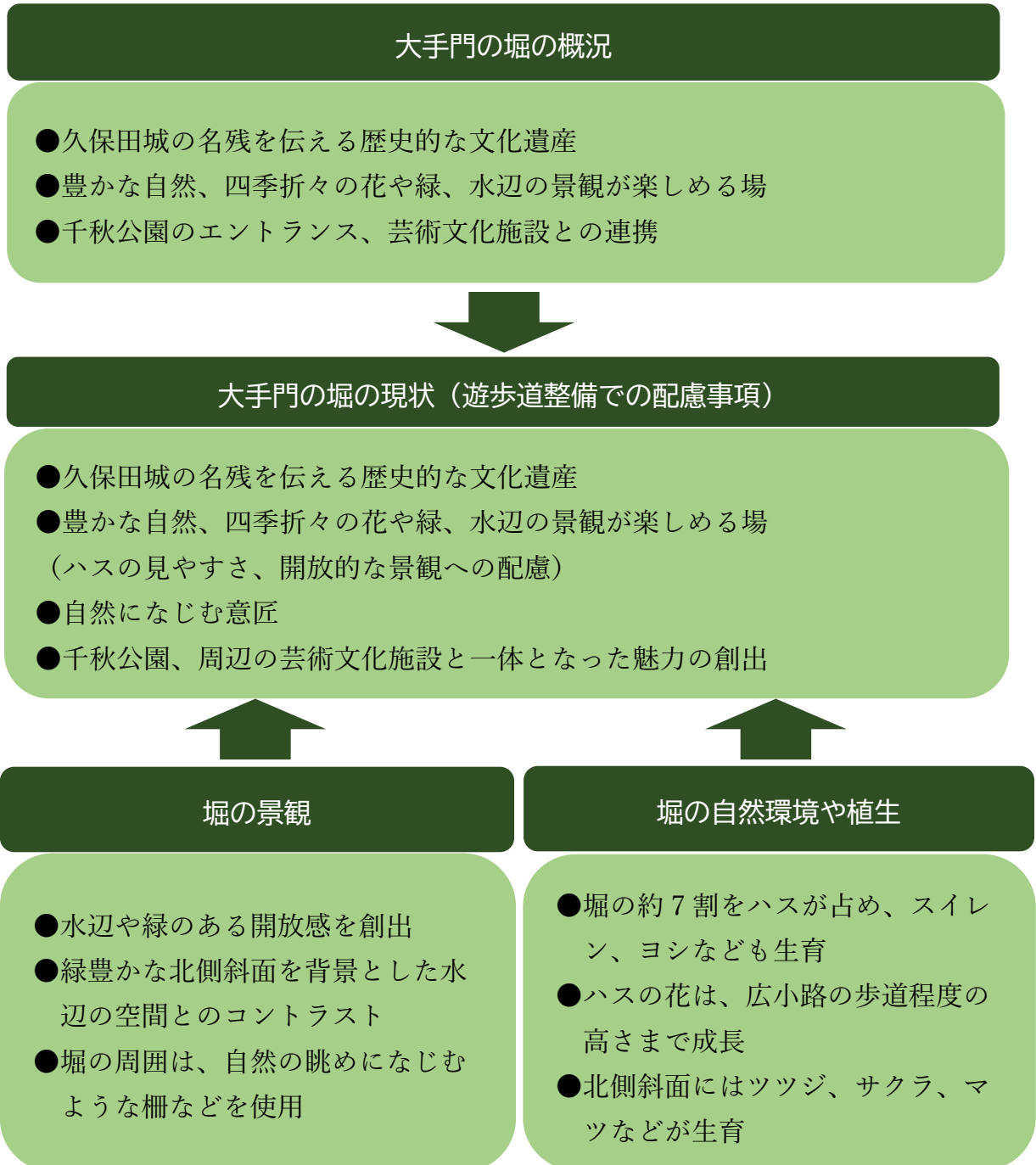
ヨシの自生状況(東側ポケットパークより)





4 現状のまとめ

大手門の堀の現状をまとめると以下のとおりとなります。遊歩道整備においては、現状を踏まえた整備を行います。





第3 基本方針

1 遊歩道整備の方向性

千秋公園再整備基本計画（平成30年3月改定）より、基本方針「④中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり」実現のため、項目として「3 親水空間の充実」があげられています。

この具体的施策として、「(1) ポケットパーク（親水広場）からつながる遊歩道（デッキ）の整備、(2) ハスの有効活用」があります。

親水空間の充実

外堀(大手門の堀、穴門の堀)は、千秋公園だけでなく中心市街地の景観を特徴づける親水空間となっています。水質浄化対策や東側・西側のポケットパークの整備を実施しており、ハスの開花時期には多くの市民や観光客を楽しませています。

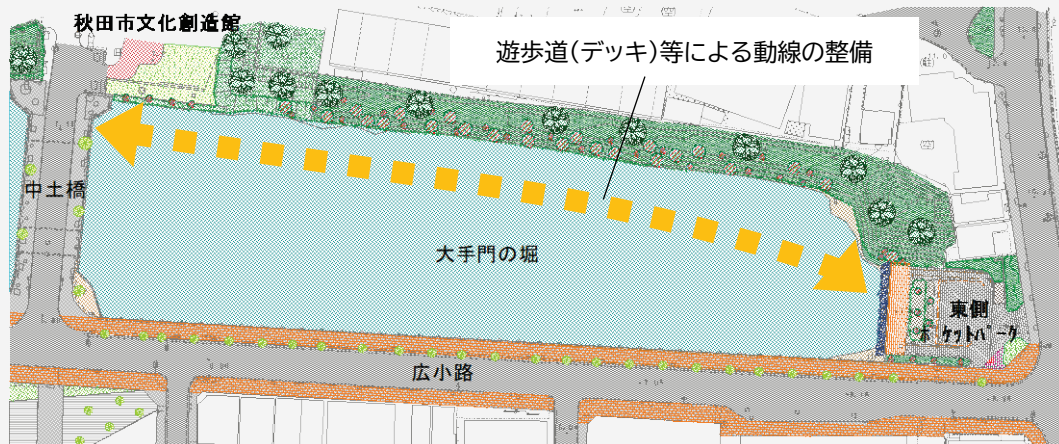
秋田駅からのアクセス拠点として東側ポケットパークを位置づけ、中土橋通りへのアクセス機能の強化とハス観賞場所としての遊歩道を整備します。

(1) ポケットパーク（親水広場）からつながる遊歩道（デッキ）の整備

- ・大手門の堀内に東側ポケットパークから中土橋へとつながる遊歩道(デッキ)を整備し、歩行者動線を強化するとともにハスを観賞できる場とします。
- ・遊歩道(デッキ)は、周辺の景観と調和のとれたデザインとします。

(2) ハスの有効活用

- ・ハスの花たぐの提供など、市民に親しまれるものとして有効活用します。





【大手門の堀遊歩道整備 基本方針】

千秋公園再整備基本計画(平成30年3月改定)

<整備目標>

- 東側ポケットパークと中土橋をつなぐ遊歩道(デッキ)の整備
- 歩行者動線の強化を図る
- ハスの観賞の場とする
- 周辺景観と調和されたデザインの適用



【大手門の堀 遊歩道(デッキ)整備 基本方針】

- 大手門の堀のハスをより近くで観賞できる
- 大手門の堀で水辺を楽しむ空間
- 誰もが安全、安心して利用できる施設
- 自然環境や水辺の景観への配慮
- 千秋公園及び周辺の芸術文化施設と一体的な利用



大手門の堀の現状 (遊歩道整備での配慮事項)

- 久保田城の名残を伝える歴史的な文化遺産
- 豊かな自然、四季折々の花や緑、水辺の景観が楽しめる場
(ハスの見やすさ、開放的な景観への配慮)
- 自然になじむ意匠
- 千秋公園、周辺の芸術文化施設と一体となった魅力の創出



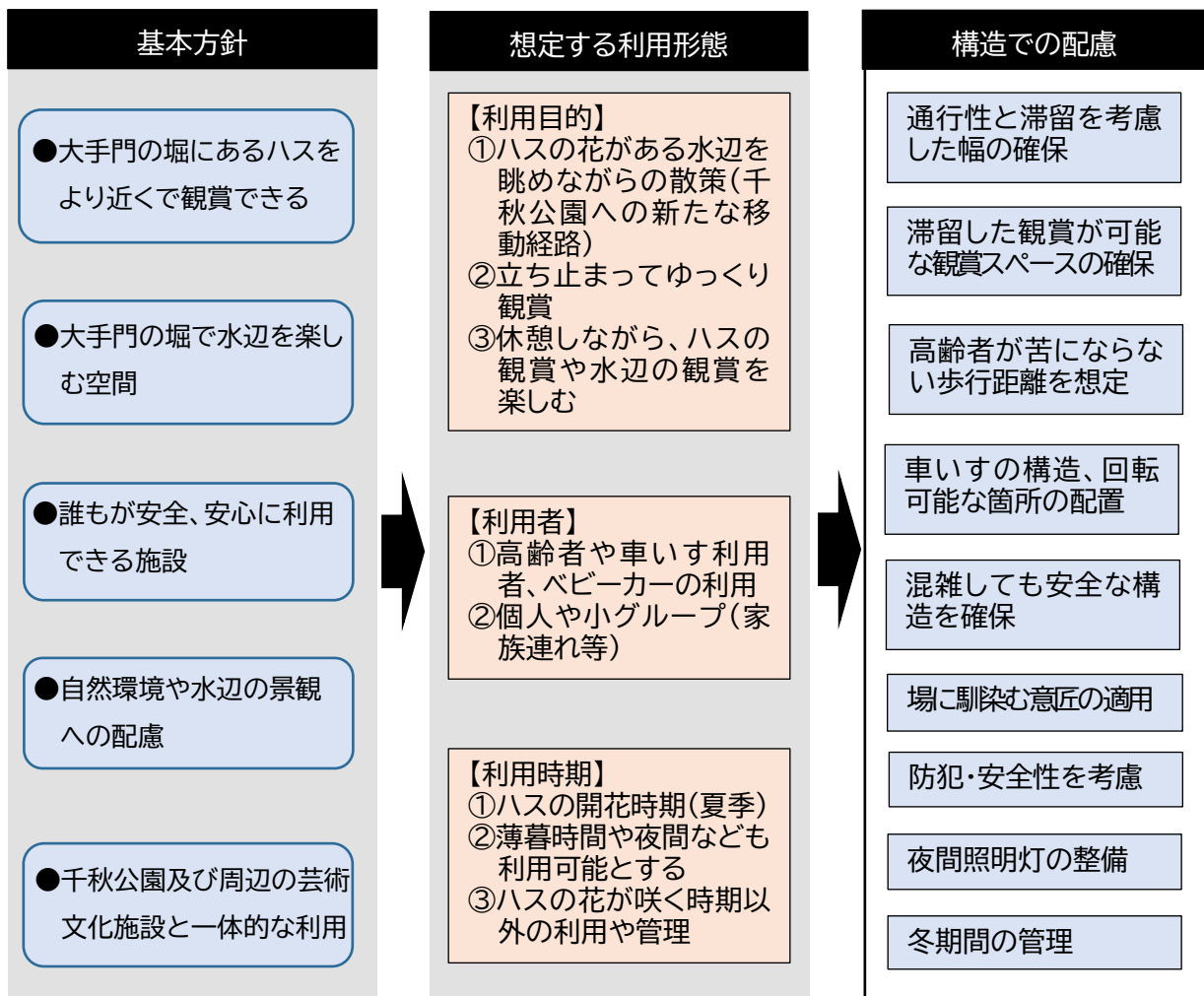
2 想定する利用形態

遊歩道は千秋公園の新たな経路となるほか、ハスの観賞や水辺の空間を楽しむための施設であることから、誰もが安全、安心に利用でき、また様々な利用の形態を想定した構造を検討します。

高齢者や車いす利用者、ベビーカーが利用できることなどを想定します。

利用時期については、利用者数が最も多くなると想定されるハスの時期を考慮します。また、利用時間帯は薄暮時間や夜間などの利用も考慮します。

日常的な散策の場としての利用の他、新たな観光スポットやイベントの場として、千秋公園や中心市街地の魅力向上の効果が期待されます。





3 動線計画

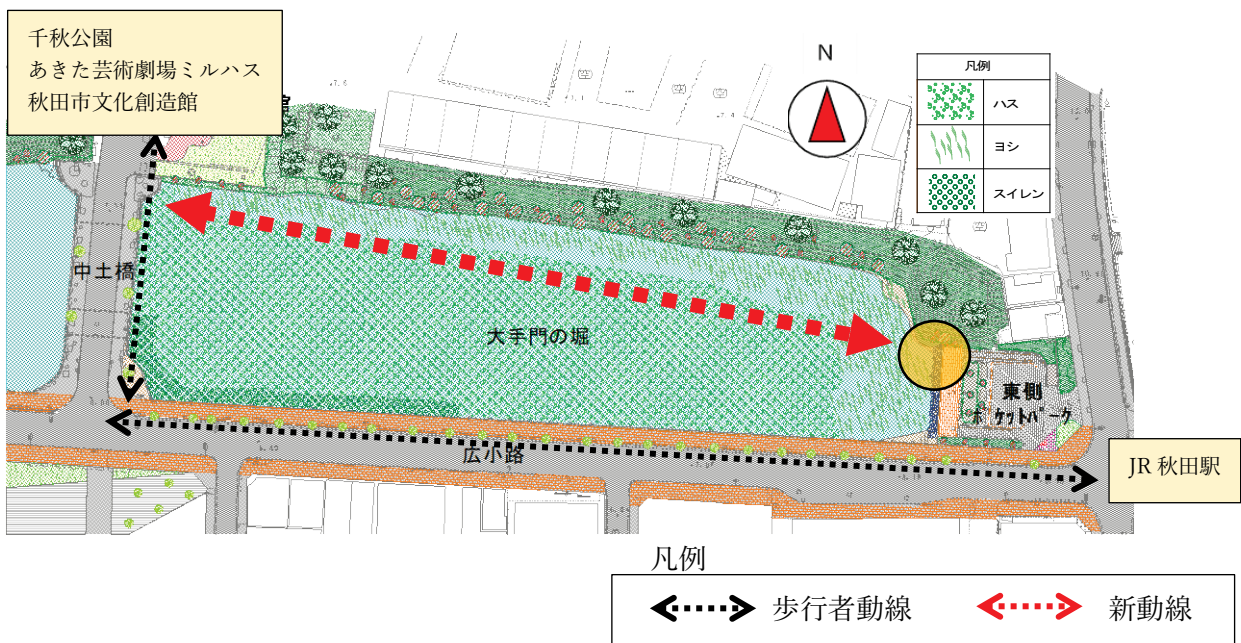
- ・ 東側ポケットパークと中土橋をつなぐ歩行者動線の強化
- ・ ハスの生育範囲を通る動線
- ・ 広小路側からの視線を妨げない動線
- ・ 芸術文化施設との一体的な利用を考慮、堀の北側に遊歩道を設置

東側ポケットパークと中土橋をつなぎ、歩行者動線を強化するとともに、ハスや親水空間の魅力向上させる動線を基本とします。

ハスに囲まれた空間を創出し、間近で観賞できるように、ハスの生育範囲を通る動線とします。

広小路側からの視線を妨げないように、離れた位置に遊歩道を整備します。

遊歩道と芸術文化施設の一体的な利用とするため、堀の北側に配置します。



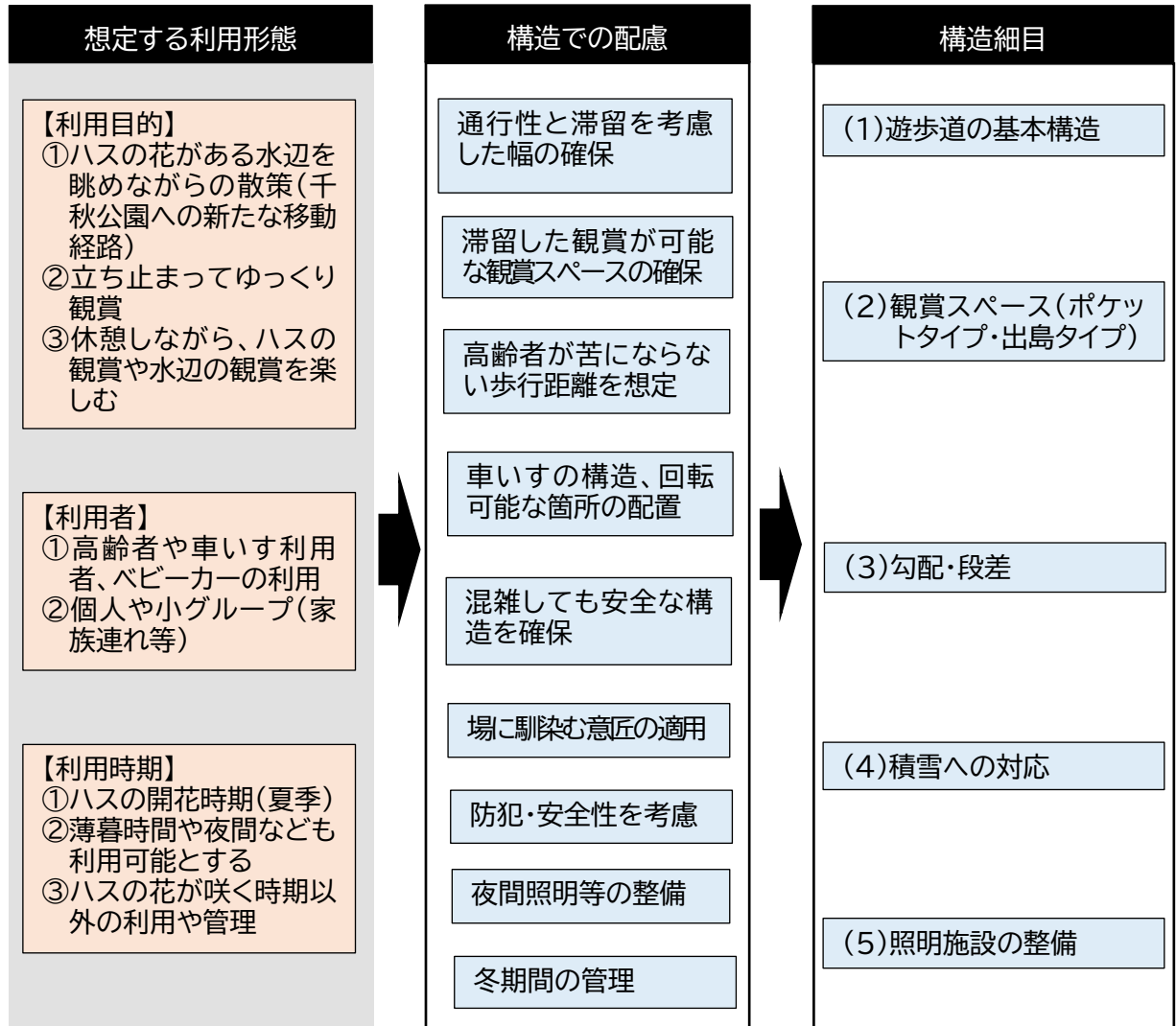
歩行者動線計画(公園アプローチ動線)



第4 整備イメージ

1 遊歩道の構造方針

想定される利用から、遊歩道構造方針を以下に設定します。





(1) 遊歩道の基本構造

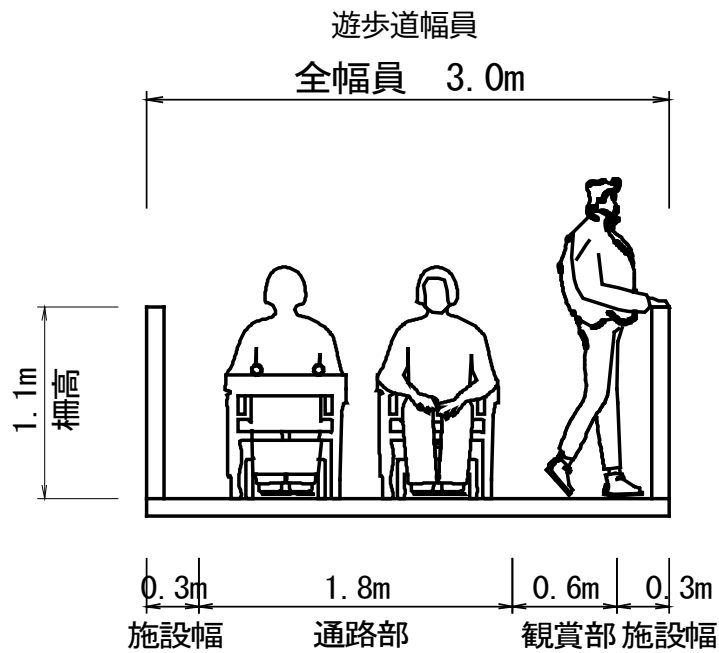
遊歩道幅員は、通路及び観賞のために以下で構成します。

通路部・・・車イスがすれ違うことができる最小幅 1.8mを確保

観賞部・・・大人1人の体の幅を 0.6m とし、一時的に立ち止まれる幅を確保

施設幅・・・転落防止柵や照明施設などの施設設置幅として 0.3m を両端に確保

※自転車、バイク等の乗り入れは禁止します。



堀への転落を防止するため、高さ 1.1m の転落防止柵を設置します。転落防止柵は、視界に入りやすいため、自然景観になじむよう検討します。

柵のイメージ





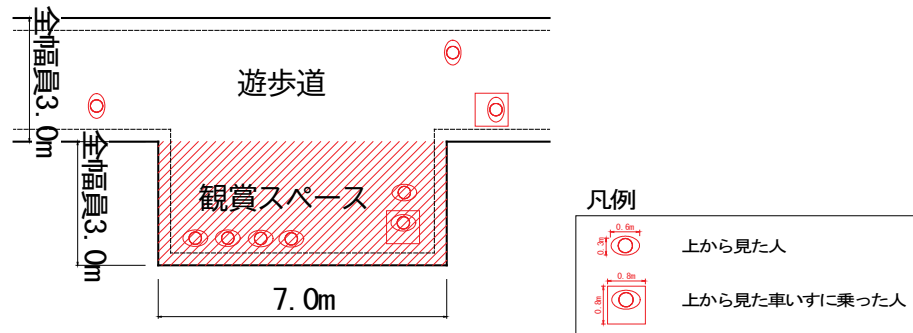
(2) 観賞スペース

ハスや水辺の観賞の滞留利用のほか、写真撮影、小グループでの利用、車いす回転場などの利用を想定した観賞スペース（ポケットタイプ）を設置します。

ハスや水辺に囲まれた空間での写真撮影や人との距離を気にせず休憩できるような利用を想定した観賞スペース（出島タイプ）を設置します。

観賞スペース（ポケットタイプ）

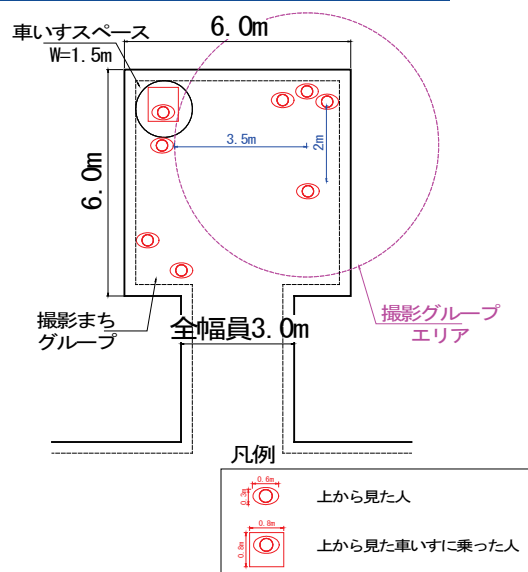
通行者を気にせずにゆったりと佇むことができるポケットタイプです。複数人での利用を想定し、観賞スペースは20m²を確保します。家族連れが並んで観賞できるとともに、車イス利用者もゆったり観賞でき、介助者による車イスの回転ができる場所となります。



観賞スペース(ポケットタイプ)の規模

観賞スペース（出島タイプ）

堀内に突き出た形状のため、周囲を水面に囲まれた場となり、他のグループとの十分な距離を取りながら佇むことができます。ハスや水辺を背景とした写真撮影でも、他のグループを気にせず利用可能です。



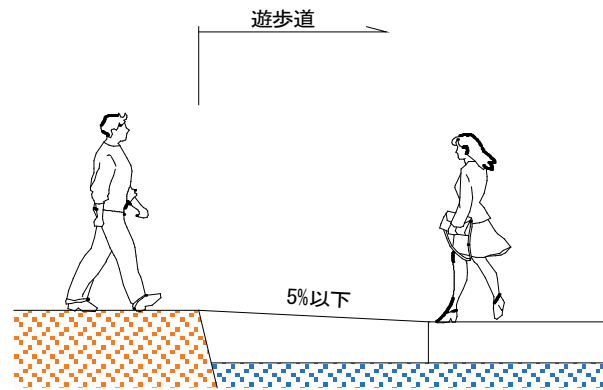
観賞スペース(出島タイプ)の規模



(3) 勾配・段差

誰もが安全、安心して利用できるよう、通路には段差や斜路がないよう配慮します。斜路になる場合には、円滑に移動できるように勾配を5%以下とします。

想定される斜路・・・岸から遊歩道の接続箇所



通路部の勾配

(4) 積雪への対応

降雪期の積雪に対応した構造とします。

冬期間の利用については想定していませんが、イベント等での活用ができるようにします。

(5) 照明施設の整備

利用者が少ない深夜は通行止めになりますが、イベント等で活用ができるよう、歩行者の安全を確保するため、足元を照らすフットライトを設置します。



照明施設整備イメージ



2 遊歩道の構造

堀の底は、軟弱な地盤が厚く、強固な地盤は軟弱な地盤の下にあります。

遊歩道構造は、盛土を行いその上に遊歩道を構築するもの、また、栈橋として、杭基礎や浮栈橋構造が候補として挙げられます。

地盤状況から盛土や杭基礎は施工が大規模となるため、水質影響、施工性から、栈橋（浮栈橋）構造を適用します。

本体構造比較

タイプ		盛土	栈橋(杭基礎)	栈橋(浮栈橋)
特徴		盛土を行い、遊歩道を整備する。	地盤に固定した杭の上に栈橋を設置する。	浮体構造物上に栈橋を設置する。
現地条件				
地盤状況	軟弱地盤	△ 軟弱地盤であるため、地盤改良等が必要になる。	△ 可能である。軟弱地盤であるため、施工時の振動を考慮する必要がある。	○ 浮体構造のため、地盤の影響はない。
環境への配慮	水質およびハスの影響	△ 地盤改良は水質への影響が想定されるため、計画地には適さない。矢板による土留め工法等が適用できる。盛土部分でハス(蓮根)の生育ができない。	△ 杭施工時に、濁水が発生する可能性があるため、水質への配慮が必要である。杭を打つ部分でハス(蓮根)の生育ができない。	○ 本体の浮体構造や水中アンカーは、施工時に現地地盤への影響が少なく、材質も水質への影響が少ないものを適用できる。水中アンカー設置時にハス(蓮根)への配慮が可能であり、影響が少ない。
施工性	大手門の堀には広小路、中土橋が隣接する	△ 矢板の施工を想定した場合、重機が必要になる。大手門の堀北側からの施工はできないため、堀内に作業構台の設置が必要になる。	△ 杭打ちで、大手門の堀北側からの施工はできないため、作業構台の設置が必要になる。また、施工場所の止水等の仮設工が発生する。	○ 製品の搬入が必要になるが、中土橋側および東側ポケットパークからの搬入が可能である。

※○…可能である、△…可能であるが課題がある



栈橋(浮栈橋)

大手門の堀では、軟弱地盤であることや施工時の制約が大きいことから、地盤の影響を受けず施工でも優位性の高い「栈橋(浮栈橋)」を採用



上野恩賜公園（東京都台東区）不忍池

栈橋（浮栈橋）イメージ

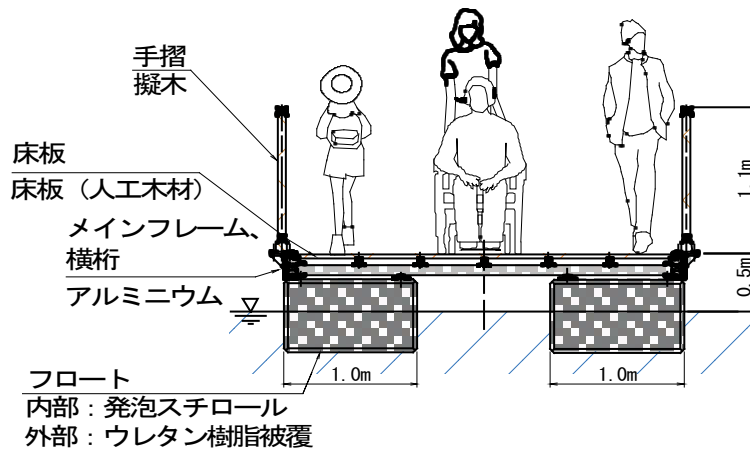


3 浮棧橋の構造細目

浮棧橋は、浮体構造物上に柵などを設けて歩くことができるものとなります。水面に浮いているため、地盤の柔らかい沼地や湿地などで設置されるものです。以下に構造を示します。

(1) 構造概形 (通路部)

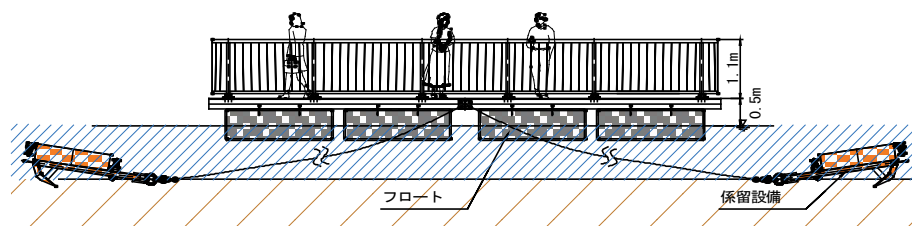
フロートの上に、デッキが設置されている構造となります。遊歩道の利用者数、積雪量などから、フロートのサイズを決定します。床板は大手門の堀の自然になじむよう、人工木材とし、滑りにくい通路とします。



浮棧橋概形

(2) 係留設備

風や波の影響を考慮し、係留設備を設置します。浮棧橋の両側に 10m から 20m 程度の間隔でアンカーを配置し、浮棧橋とつなぐことで、風や波による影響を軽減させ、遊歩道を安全に利用することができます。係留設備は設置の際、ハス(蓮根)への影響がないよう配慮します。



係留設備



参考：池等で使われる金錨

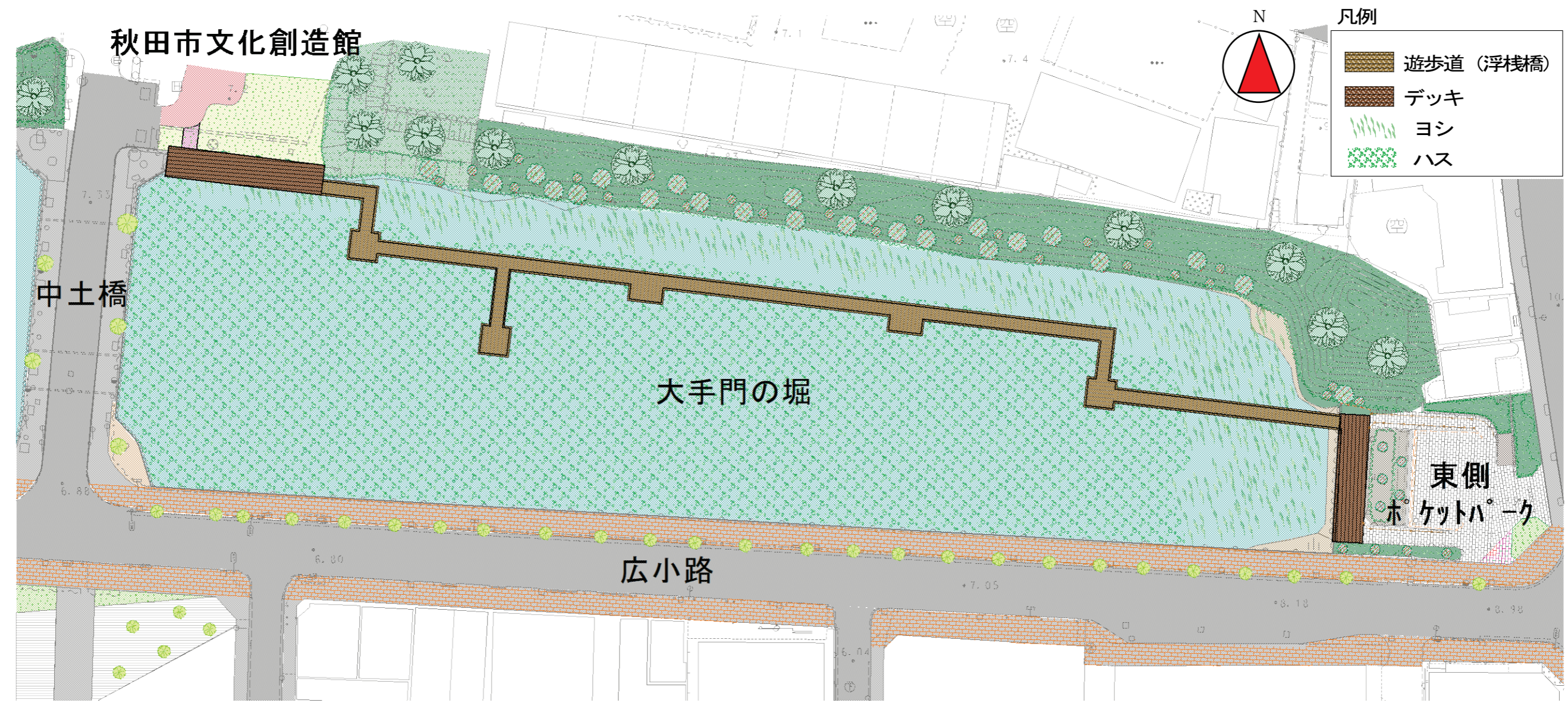


4 遊歩道のルート

第3 基本方針、第4 整備イメージより、遊歩道のルートを下記のとおり設定します。

- ・遊歩道は広小路側からの眺めの妨げにならないよう、堀の北側に配置します。
- ・ハスを間近で観賞できるよう、ハスの生育範囲の中を通るルートとします。
- ・観賞スペース(ポケットタイプ)は約 50m の間隔で配置し、適度に休憩しながら大手門の堀の散策ができ、ハスや水辺の観賞を楽しむことができます。
- ・観賞スペース(出島タイプ)は、ハスや水辺に囲まれた空間となり、非日常的な時間を楽しむことができます。
- ・ハスのライトアップや秋田芸術劇場ミルハスや秋田市文化創造館などの一体的な利用を考慮した配置とします。
- ・千秋公園及び周辺の芸術文化施設との一体的な利用を考慮し、秋田市文化創造館の芝生広場への接続を行います。

大手門の堀遊歩道整備イメージ図



遊歩道全体のイメージ



広小路からの見え方 (春季)



東側ポケットパークからの見え方 (夏季)



中土橋からの見え方 (夏季)